

一等水準点検測成果集録

第 17 卷

(昭和47年度観測)

昭和 48 年 12 月

建設省国土地理院

記

本集録は、昭和 47 年度に、国土地理院が行なった一等水準点検測の結果を集録、
図示したものである。

なお、新潟地方地盤変動調査のため行なった一等水準点検測の結果は、新潟地方地
盤変動調査測量に関する報告第 25 巻（昭和 48 年 3 月）をもって発表済みであるの
で、本集録では省略した。

昭和 48 年 12 月

建設省国土地理院

一等水準点検測成果集録

第 17 卷

(昭和47年度観測)

目 次

1. 観測器械および観測法	3
(1) 観 測 器 械	
(2) 観 測 法	
2. 検測区域および期間	5
3. 変動図の説明	7
付図 一等水準路線図	
一等水準点変動図	

1 観測器械および観測法

(1) 観測器械

A 水準儀

観測年度	水準儀名称	望遠鏡倍率	水準器感度
大正14年(1925)以後	Carl Zeiss製Ⅲ型精密水準儀	36倍	10"~12"/mm(合致式)
昭和28年(1953)以後	Carl Zeiss製Ⅲ型精密水準儀	36倍	"
	Wild製N3型精密水準儀	42倍	10"/2mm(合致式)
昭和31年(1956)以後	Wild製N3型精密水準儀	42倍	"
昭和43年(1968)以後	Wild製N3型精密水準儀	42倍	"
	Zeiss製Ni2型精密水準儀	32倍	円型水準器 8'

B 水準標尺

観測年度	水準標尺名称	長さ	目盛部の状況	
			材質	目盛法
大正14年以後 (1925)	Carl Zeiss製精密水準標尺	3m	インパール(巾2.6cm長さ3mのものを20Kgの張力で緊張してある)	インパール帯の中央線の両側に2.5mmの差をもって、5mmごとに目盛る
昭和28年以後 (1953)	Carl Zeiss製精密水準標尺	3m	"	"
	Wild製精密水準標尺	3m	"	同上5mmの差をもつて10mmごとに目盛る
昭和31年以後 (1956)	Wild製精密水準標尺	3m	"	"

(2) 観測法

観測に当っては、地上によく踏みこんだ鉄製標尺台に、標尺を尺付属の丸型レベルによって

鉛直に立て、水準儀は両標尺間の中央に整置し、後視—前視、更に前視—後視の順序に観測を行なう。

整準ねじによってまず、丸型レベルの気泡を中央に導き、第一回視準は、望遠鏡の視野における標尺の左側分画線の中央に、第二回は右側分画線の中央に、それぞれ測微装置によって「くさび」型十字糸を導き、プリズム内の水準器気泡の映像が合致したとき、分画線を正しく挟んで、マイクロメーターにより、10分の1mm(昭和35年以前は100分の1mm)まで読みとった。

水準儀と標尺の距離は、平地では通常50m~60m(Carl Zeiss製Ⅲ型では40m)以内とし、各水準点間(2km、地点標に併設された水準点間は1km)は往復測量を行なって、その往復差は、 $2.5\text{ mm}\sqrt{S}$ (昭和35年以前は $1.5\text{ mm}\sqrt{2S}$ 、昭和36年より昭和39年までは $2.0\text{ mm}\sqrt{2S}$)以内である。

なお「インパール」製標尺は定期的に「インパール」製5m標準尺(共に副原器と直接比較したもの)と比較検定して、観測値に所要の補正を行なった。

2 検測区域および期間

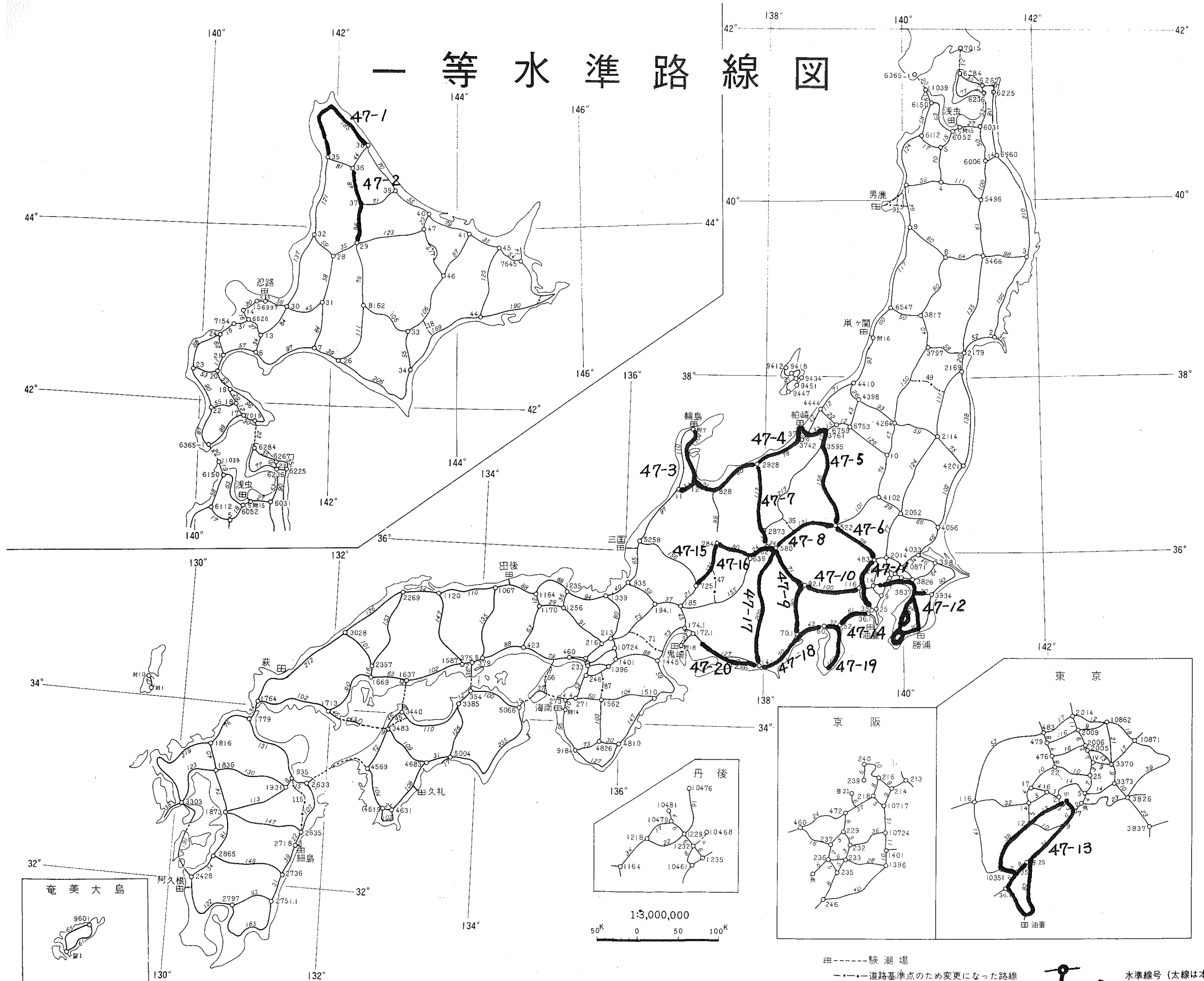
変動図 番 号	検 測 区 域	不動とした 水準点番号	キ口数	検 測 期 間
47- 1	自北海道天塩郡天塩町 B.M. J. 35 至 // 枝幸郡枝幸町 B.M. J. 38	天塩郡天塩町 J. 35	192	自昭和47年 5月 至 // 10月
47- 2	自北海道旭川市 B.M. J. 29 至 // 中川郡音威子府村 B.M. J. 36	旭川市 J. 29	130	自昭和47年 5月 至 // 9月
47- 3	自石川県輪島市 B.M. F. 17 経 // 河北郡津幡町 B.M. J. 11 至新潟県糸魚川市 B.M. J. 2928	輪島市 F. 17	237	自昭和47年 6月 至 // 9月
47- 4	自新潟県糸魚川市 B.M. J. 2928 至 // 柏崎市 B.M. 付 17	柏崎市 付 17	90	自昭和47年 6月 至 // 7月
47- 5	自新潟県柏崎市 B.M. 付 17 至群馬県高崎市 B.M. J. 522	柏崎市 付 17	159	自昭和47年 6月 至 // 8月
47- 6	自群馬県高崎市 B.M. J. 522 至埼玉県大宮市 B.M. F. 36	高崎市 J. 522	86	自昭和47年10月 至 // 11月
47- 7	自長野県塩尻市 B.M. J. 627 至新潟県糸魚川市 B.M. J. 2928	松本市 J. 2873	129	自昭和47年10月 至 // 48年10月
47- 8	自長野県諏訪郡下諏訪町 B.M. J. 580 至群馬県高崎市 B.M. J. 522	諏訪郡 下諏訪町 J. 580	124	自昭和47年 6月 至 // 8月
47- 9	自静岡県清水市 B.M. J. 70.1 至長野県諏訪郡下諏訪町 B.M. J. 580	清水市 J. 70.1	161	自昭和47年 6月 至 // 8月
47-10	自東京都八王子市 B.M. J. 116 至山梨県甲府市 B.M. J. 92.1	八王子市 J. 116	94	自昭和47年 5月 至 // 7月
47-11	自神奈川県藤沢市 B.M. J. 10351 至埼玉県大宮市 B.M. J. 483	藤沢市 J. 10351	54	自昭和47年 8月 至 // 10月
47-12 (1)	自東京都千代田区 B.M. 甲 至千葉県勝浦市 B.M. 付 20 自千葉県館山市 B.M. 3880 至 // 安房郡和田町 B.M. 3887	千代田区 甲 館山市 3880	194 14	自昭和47年 1月 至 // 3月

変動図 番号	検 測 区 域	不動とした 水準点番号	キロ数	検 測 期 間
47-12 (2)	自千葉県富津市 B. M. 3863	富 津 市	43	自昭和48年 1月 至 " 3月
	至 " 館山市 B. M. 3880	3863		
	自 " 千葉市 千葉県原点	千 葉 市	76	
	経 " 市原市	J. 3837		
至 " 勝浦市 B. M. 3904				
47-13	自東京都千代田区 B. M. 甲	千代田区	194	自昭和47年10月 至 " 11月
	経神奈川県横浜市 B. M. F. 25	甲		
	経 " " B. M. J. 35			
	至 " 三浦市 油壺験潮場			
47-14	自静岡県熱海市 B. M. J. 52	藤 沢 市	61	昭和47年12月
	至神奈川県藤沢市 B. M. J. 36.1	J. 36.1		
47-15	自岐阜県関市 B. M. J. 725	関 市	122	自昭和47年 6月 至 " 8月
	至 " 高山市 B. M. J. 784	J. 725		
47-16	自岐阜県高山市 B. M. J. 784	高 山 市	132	自昭和47年 6月 至 " 12月
	至長野県諏訪郡下諏訪町 B. M. J. 580	J. 784		
47-17	自静岡県掛川市 B. M. J. 141	掛 川 市	231	自昭和47年 9月 至 " 12月
	至長野県諏訪郡下諏訪町 B. M. J. 580	J. 141		
47-18	自静岡県掛川市 B. M. J. 141	掛 川 市	119	自昭和47年 9月 至 " 10月
	至 " 沼津市 B. M. J. 60	J. 141		
47-19	自静岡県沼津市 B. M. J. 60	沼 津 市	126	自昭和47年 9月 至 " 48年 3月
	至 " 賀茂郡南伊豆町南伊豆検潮所	J. 60		
47-20	自愛知県豊明市 B. M. F. 39	豊 明 市	127	自昭和47年11月 至 " 48年 3月
	至静岡県掛川市 B. M. J. 141	J. 39		

3 水準点変動図の説明

- (1) 変動量はすべて水準点間の新観測比高から、旧観測比高を減じた値を、仮不動点を基準として累加したものである。
- (2) 変動図中、再設、傾斜改理等のため比較不能のものについては、点線で示し、それらの点が図の両端にあるときは空白とした。
- (3) 昭和39年度から、建設省道路局長と国土地理院長との覚書により、指定区間内の一般国道において、道路管理者の設ける地点標の1Km毎に、一等水準点を併設（新設）することになりこれを道路基準点と仮称しており、001-181のような番号がなされている。

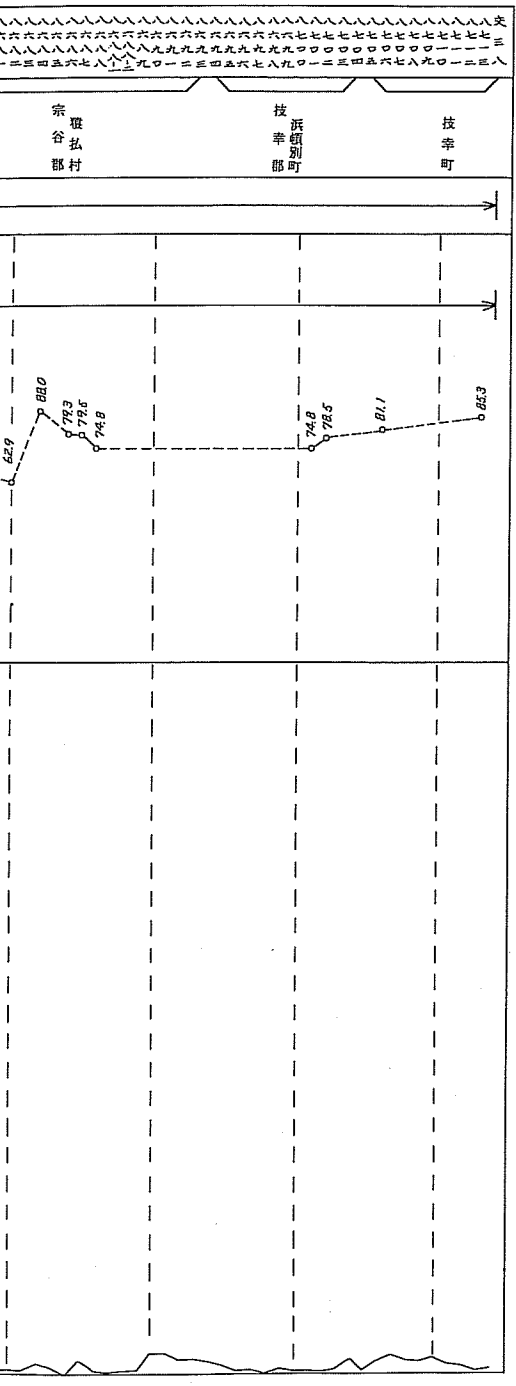
一等水準路線図

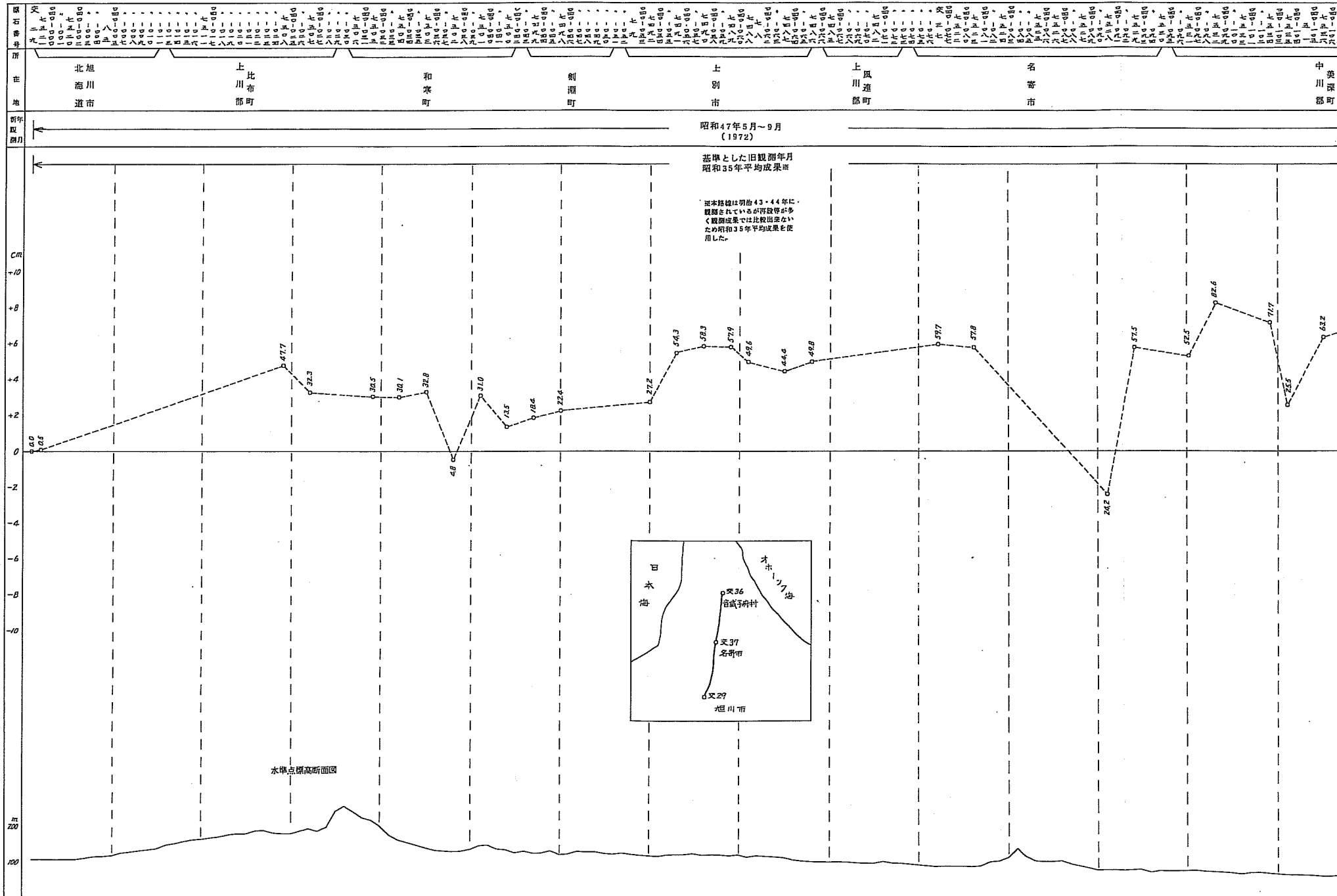


田-----驗潮場
 ---道路基準点のため変更になった路線

47-3

水準線号 (太線は本集録記載の
 検測区域、47-3は3
 動図番号)

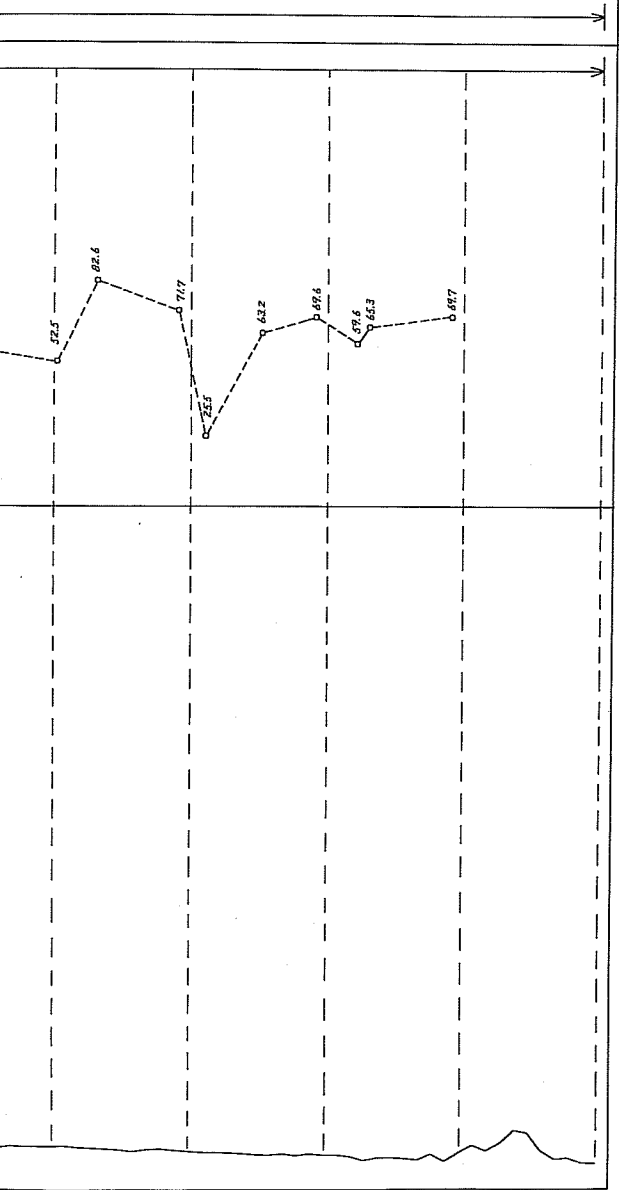


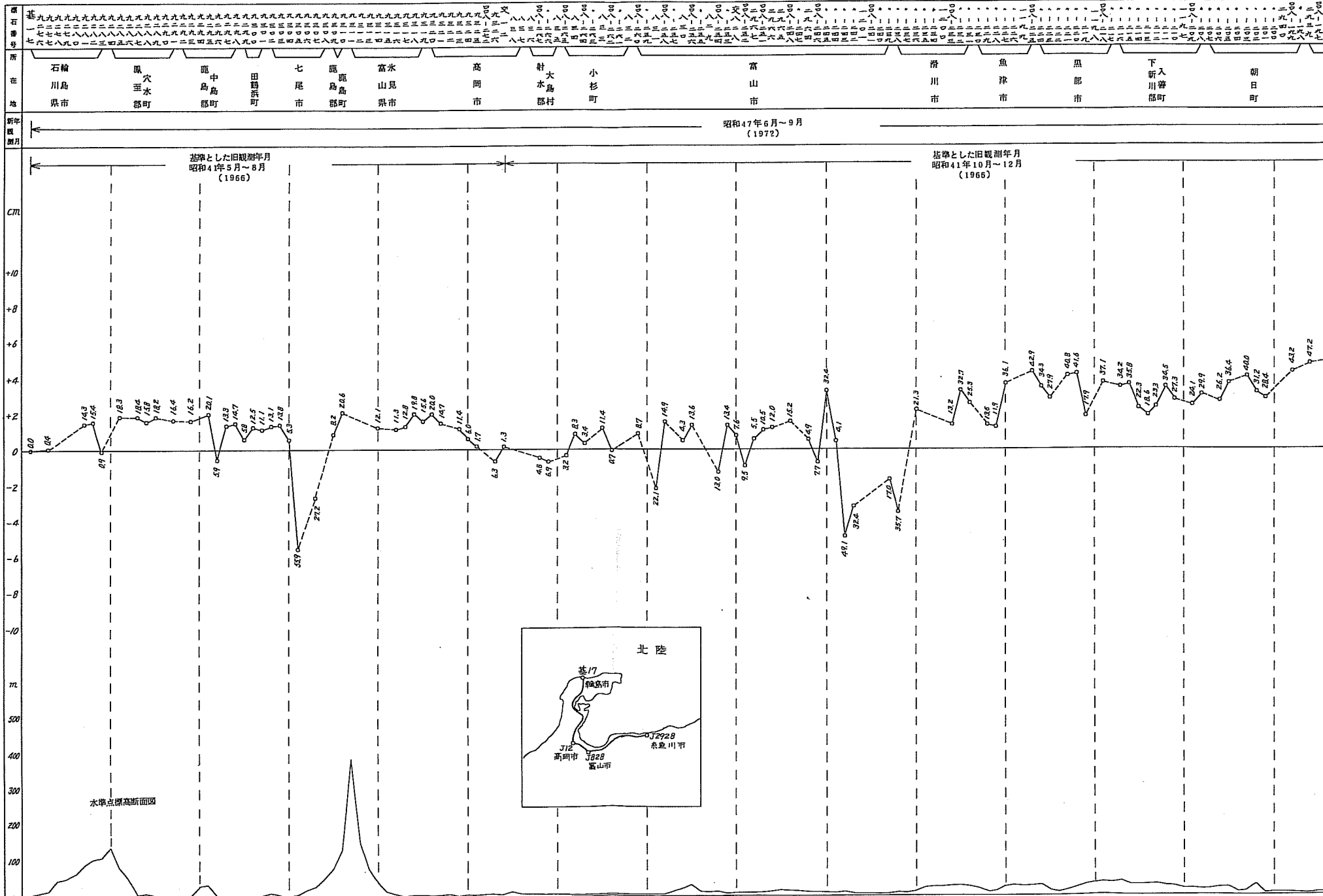


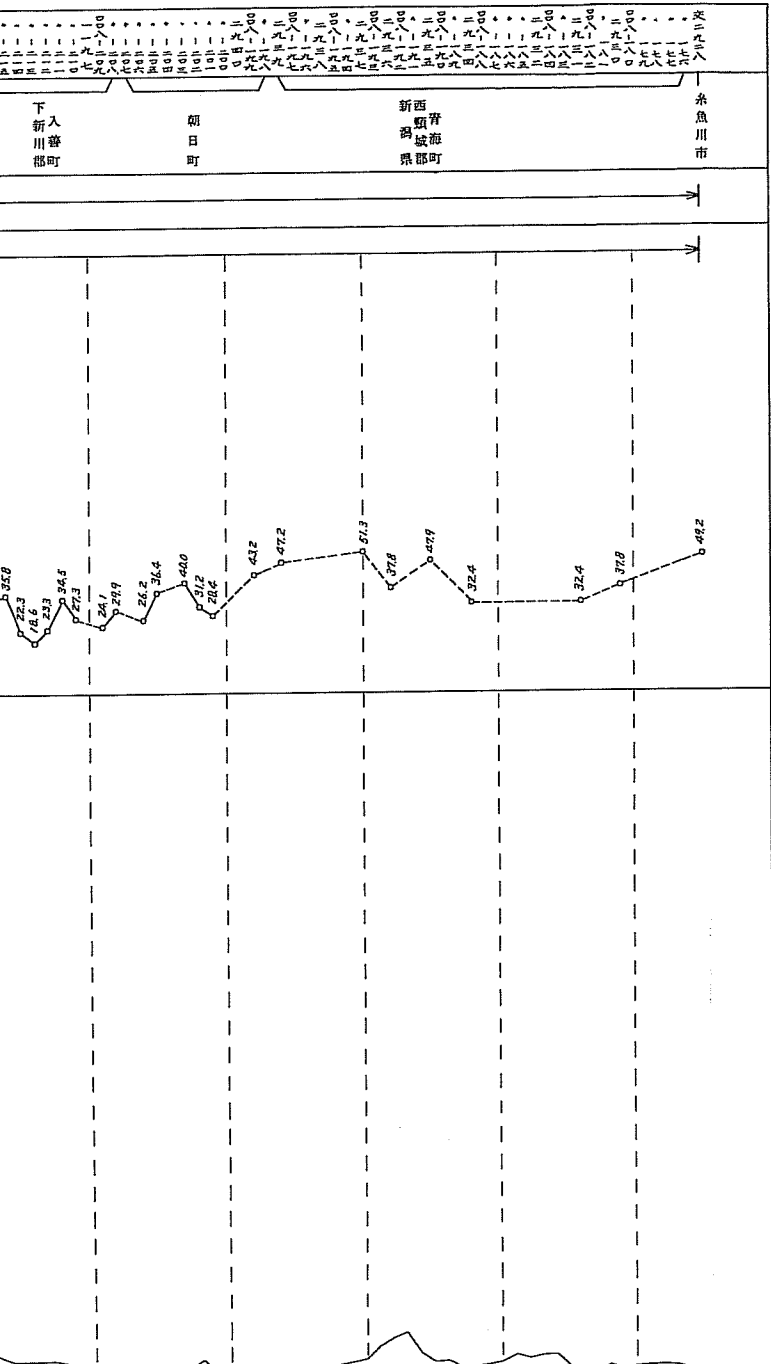
574
 0.8.8
 490-080
 710.8
 450-080
 720.8
 470-080
 730.8
 490-080
 740.8
 510-080
 750.8
 530-080
 760.8
 550-080
 770.8
 570-080
 780.8
 590-080
 790.8
 610-080
 800.8
 630-080
 810.8
 650-080
 820.8
 670-080
 830.8
 690-080
 840.8
 710-080
 850.8
 730-080
 860.8
 750-080
 870.8
 770-080
 880.8
 790-080
 890.8
 810-080
 900.8
 830-080
 910.8
 850-080
 920.8
 870-080
 930.8
 890-080
 940.8
 910-080
 950.8
 930-080
 960.8
 950-080
 970.8
 970-080
 980.8
 990-080
 990.8

中
美
川
深
郡
町

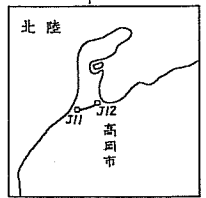
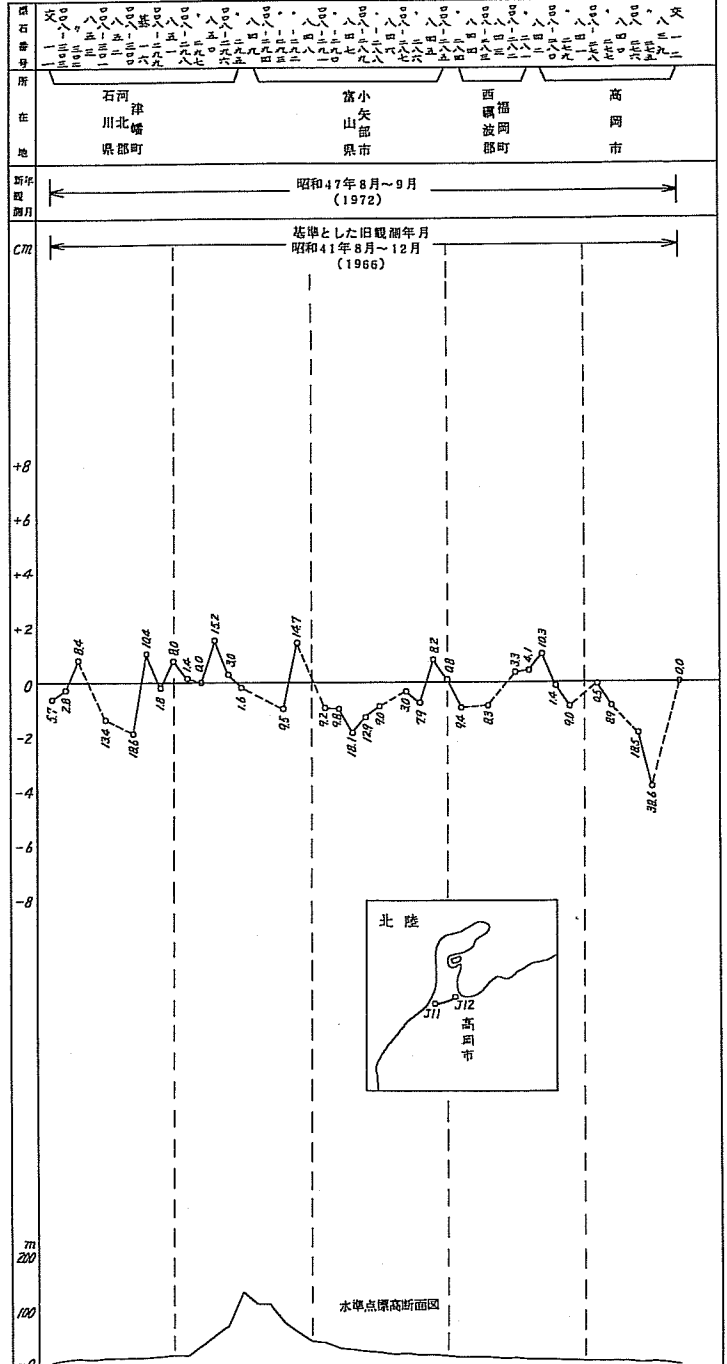
音
波
子
清
村



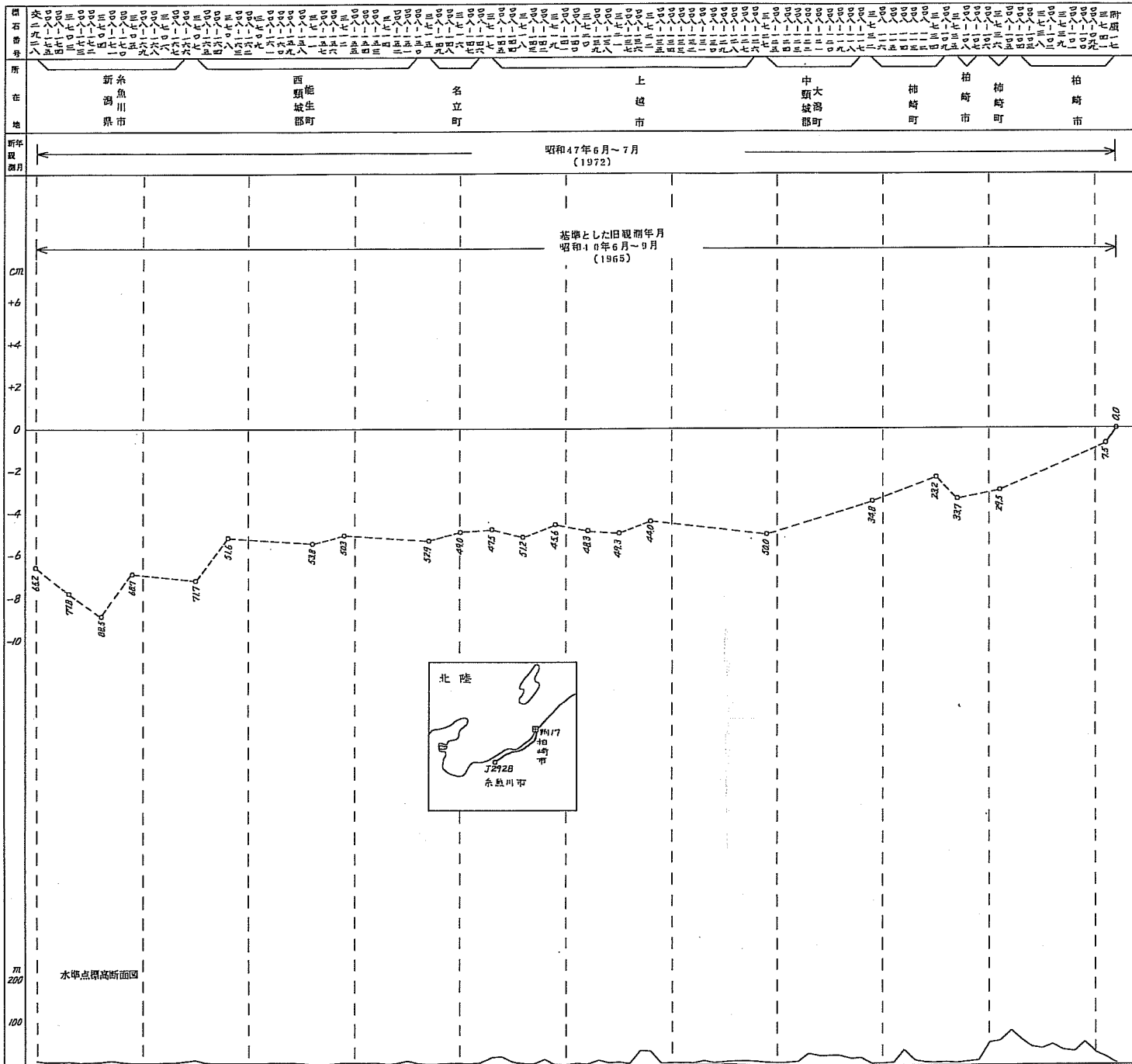




自石川県河北郡津幡町 至 富山県高岡市



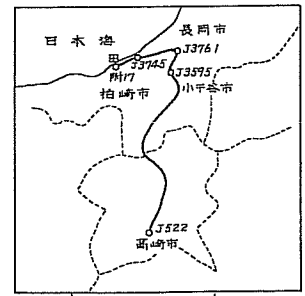
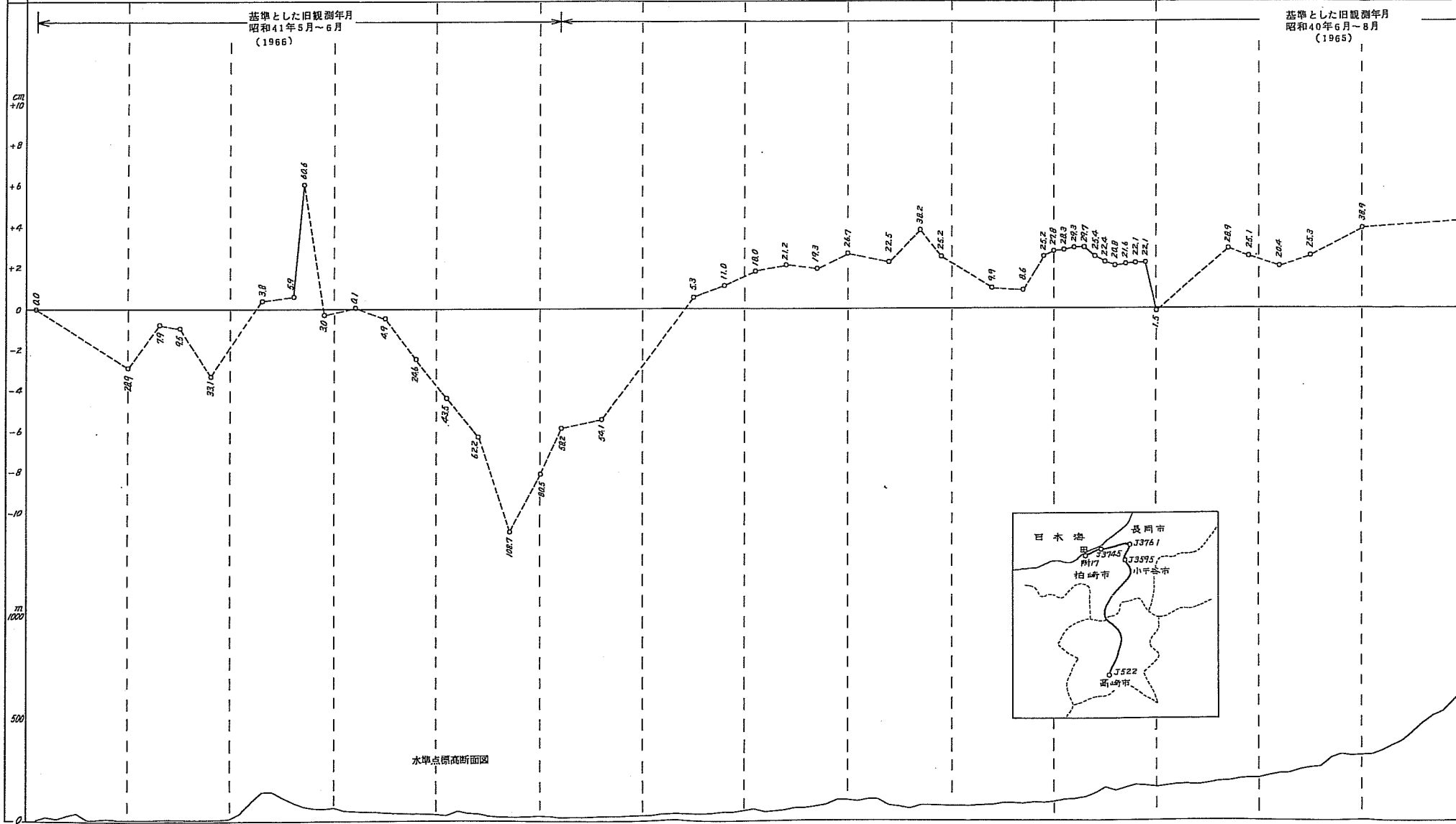
水準点標高断面図



村	新柏	刈羽	長岡	小千谷	北魚沼	川口	堀内	小出	大和	六日	塩沢
市	新潟	新潟	新潟	群馬	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟
地	市	郡	市	市	郡	郡	町	町	町	町	町

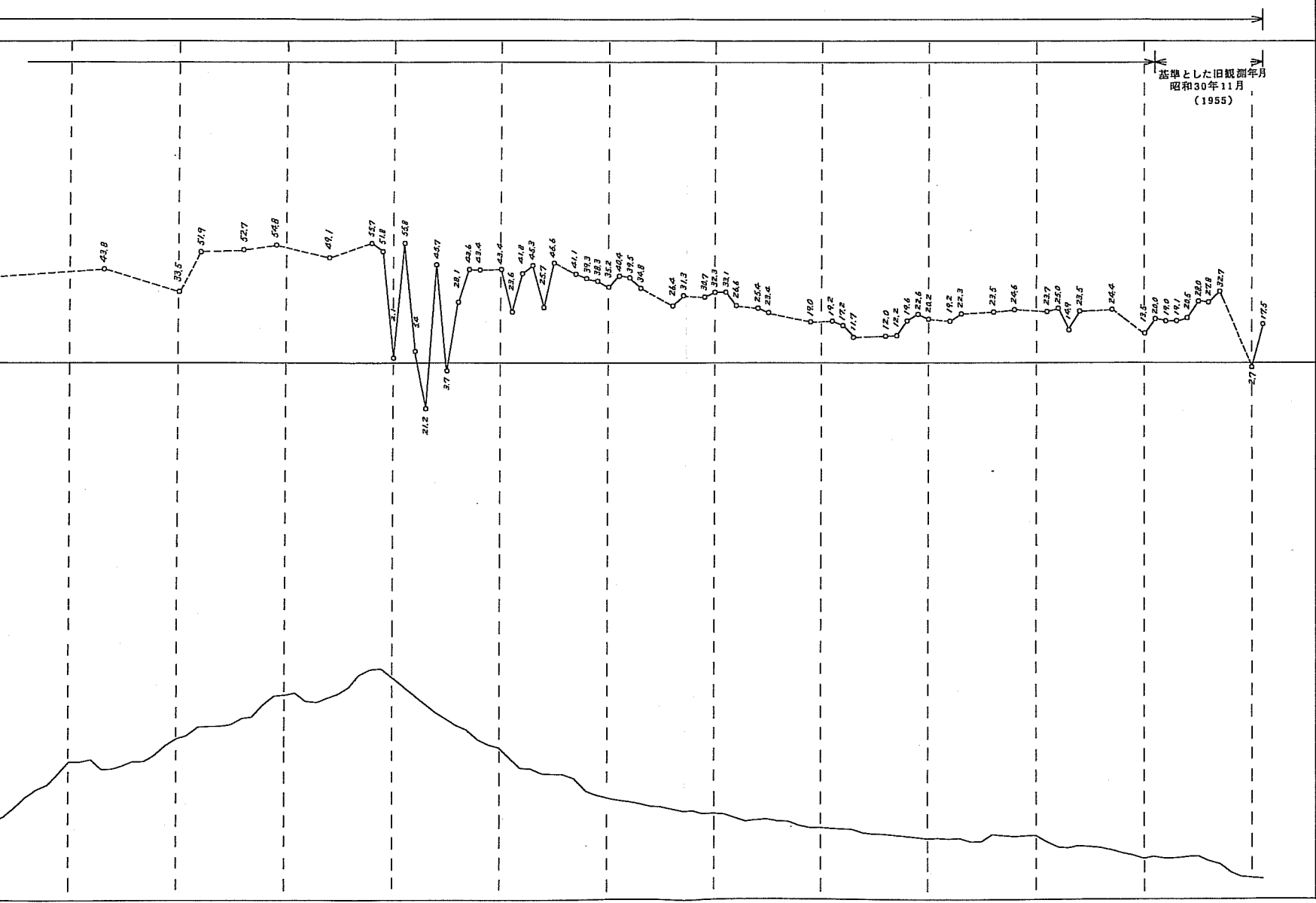
昭和47年6月~8月
(1972)

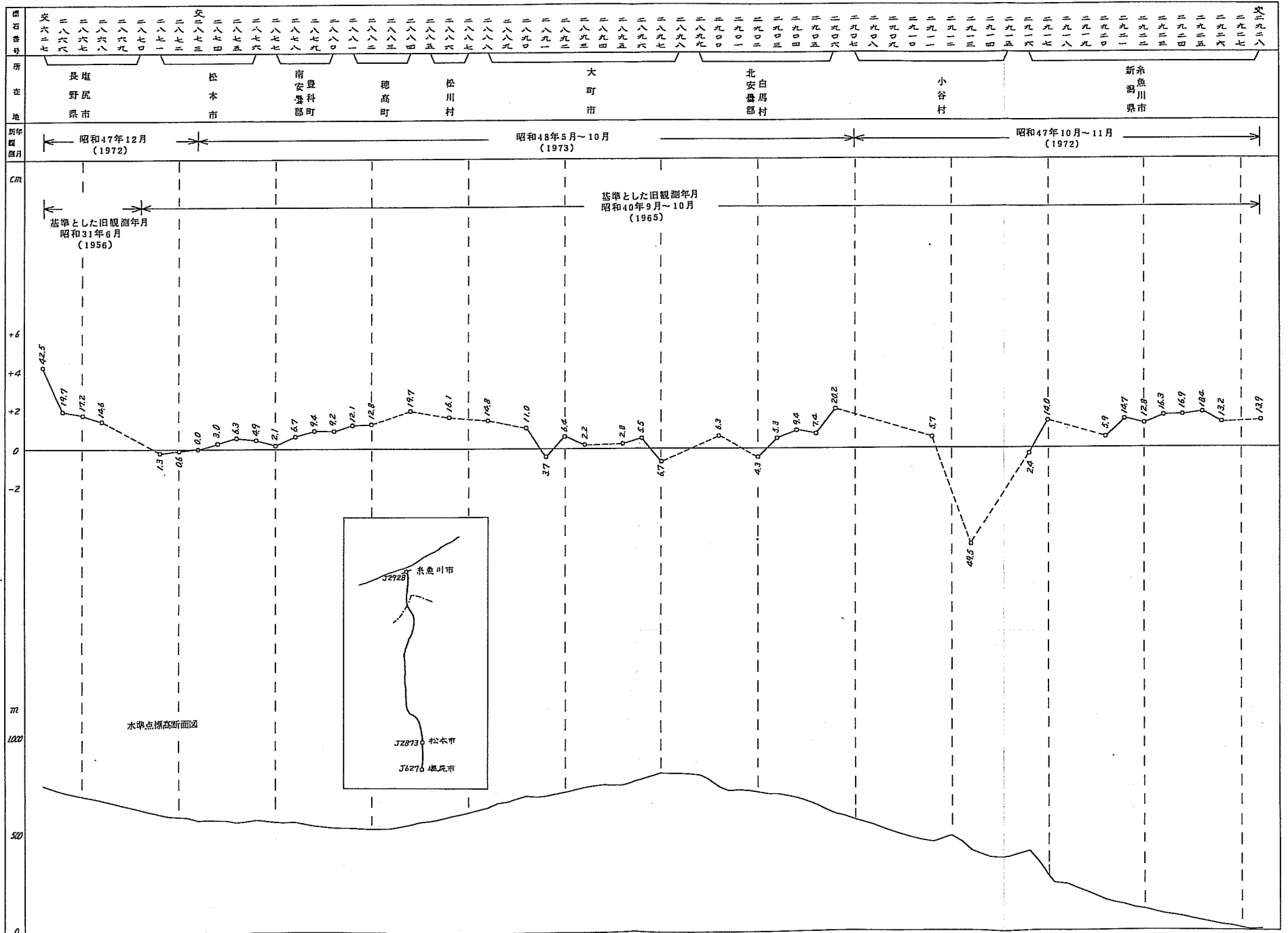
基準とした旧観測年月
昭和40年6月~8月
(1965)

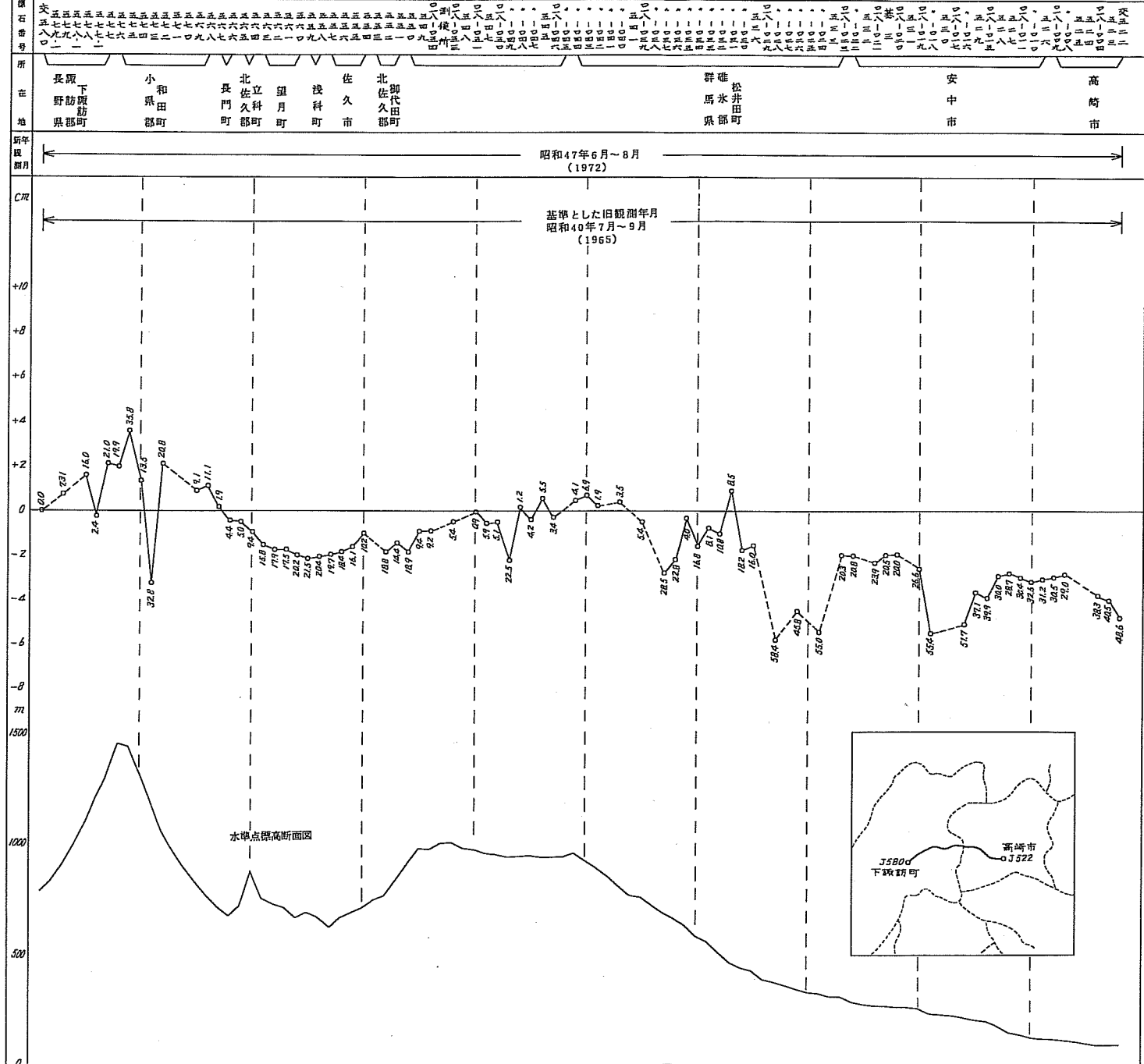


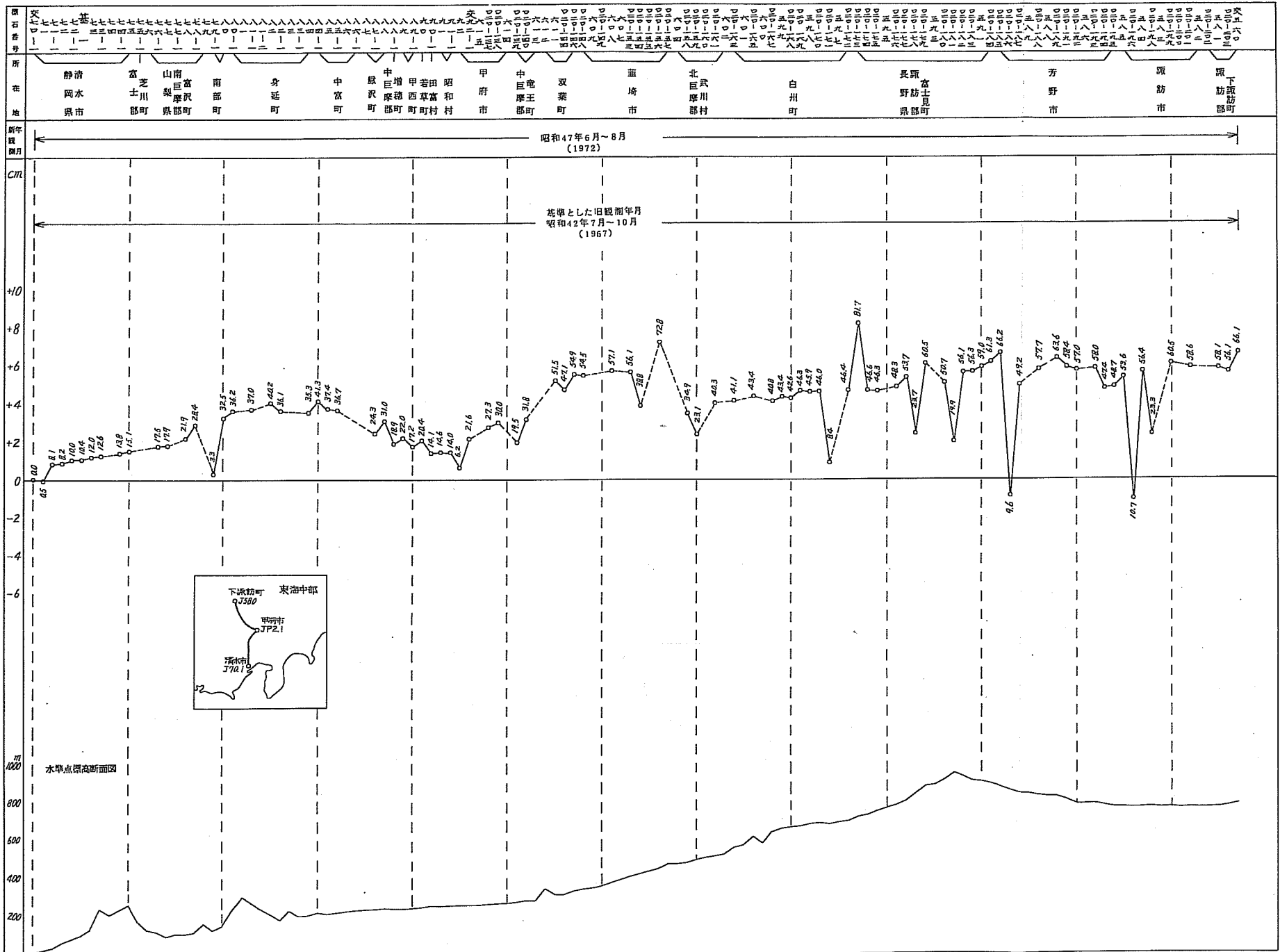
沼沢町
 群利新治
 馬根県郡村
 月夜野町
 沼田市
 北群馬
 子馬村
 北群馬
 川馬郡村
 高野市

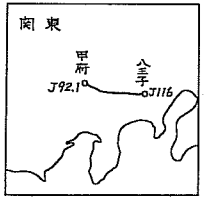
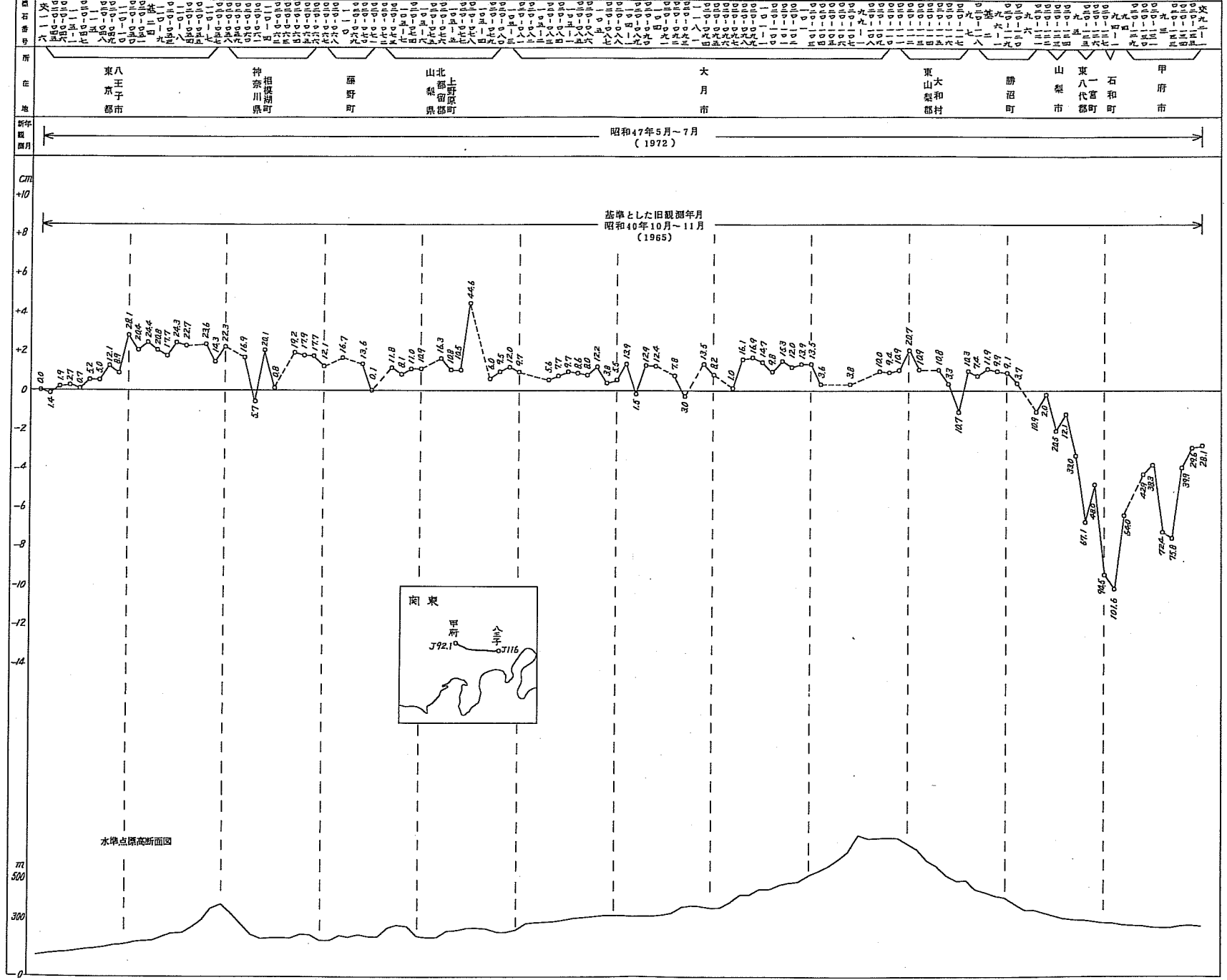
沼沢町
 群利新治
 馬根県郡村
 月夜野町
 沼田市
 北群馬
 子馬村
 北群馬
 川馬郡村
 高野市







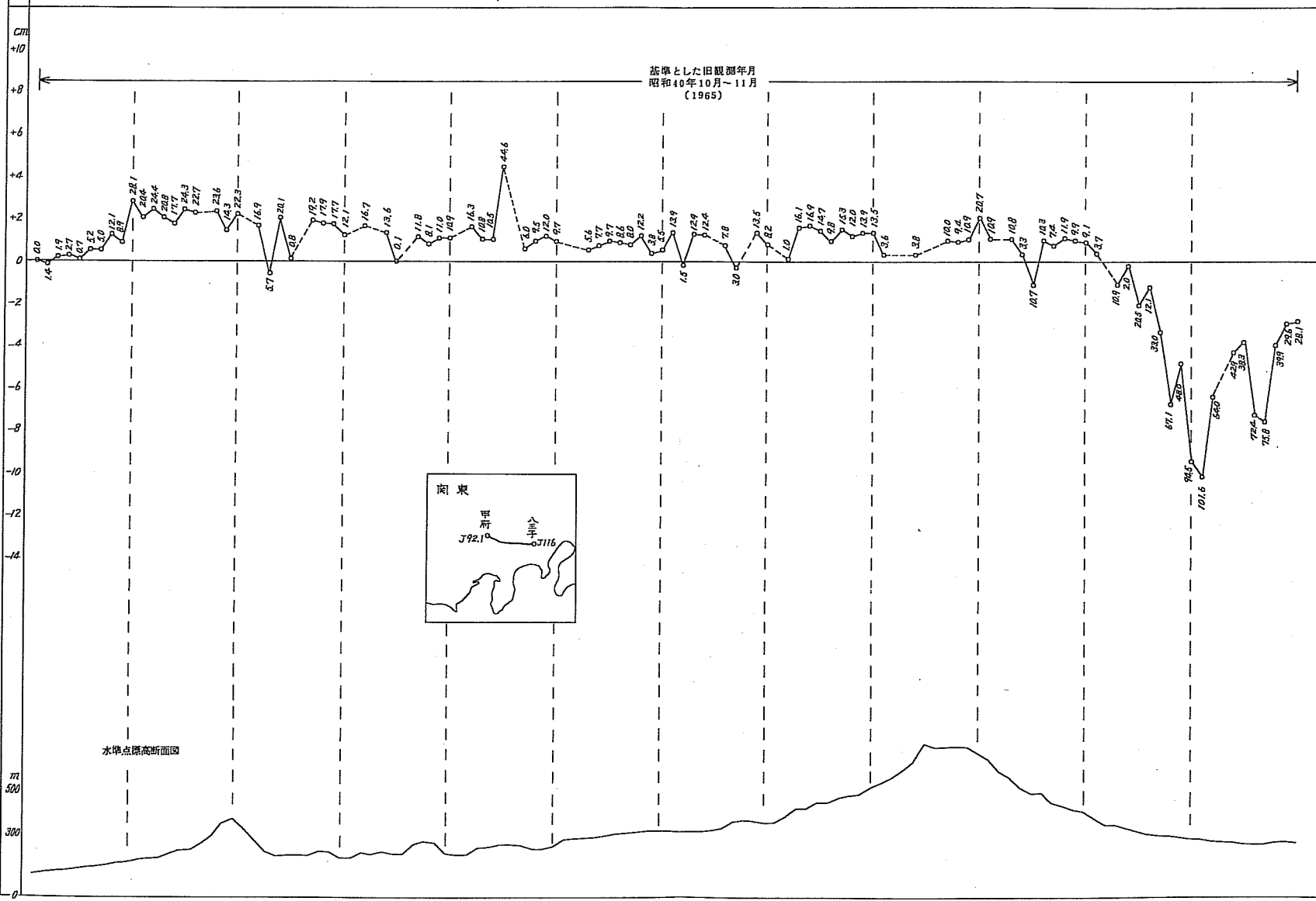




所	東八	神奈	野	山北	大	東山	勝沼	山	東八	石	甲
在	王子	川崎	野	北	月	梨	沼	梨	代	和	府
地	市	市	市	市	市	村	町	市	町	町	市

昭和47年5月~7月 (1972)

基準とした旧観測年月 昭和40年10月~11月 (1965)

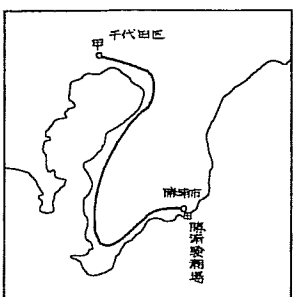
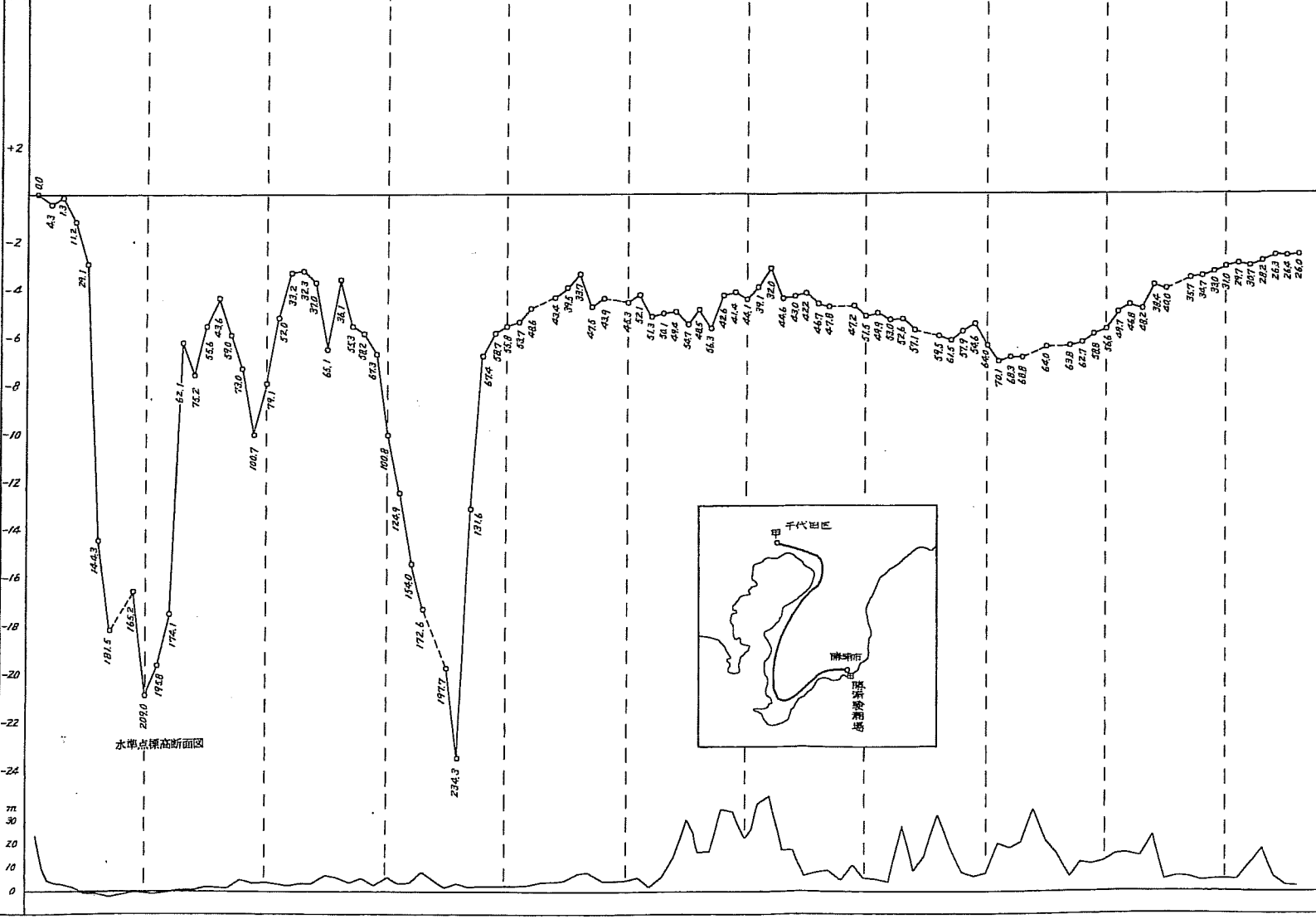


所 在 地	東京都千代田区	東京都中央区	東京都江東区	千葉県千代田市	千葉県船橋市	千葉県習志野市	千葉県千葉市	千葉県市原市	千葉県君津市	千葉県君津市	千葉県木更津市	千葉県市川市	千葉県安房郡	千葉県富山町	千葉県富山町	千葉県館山市	千葉県丸山町	千葉県和田町	千葉県江見町	千葉県鴨川市	千葉県天津小湊町	千葉県勝浦市
甲 方 番 号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
乙 方 番 号	999	998	997	996	995	994	993	992	991	990	989	988	987	986	985	984	983	982	981	980	979	978

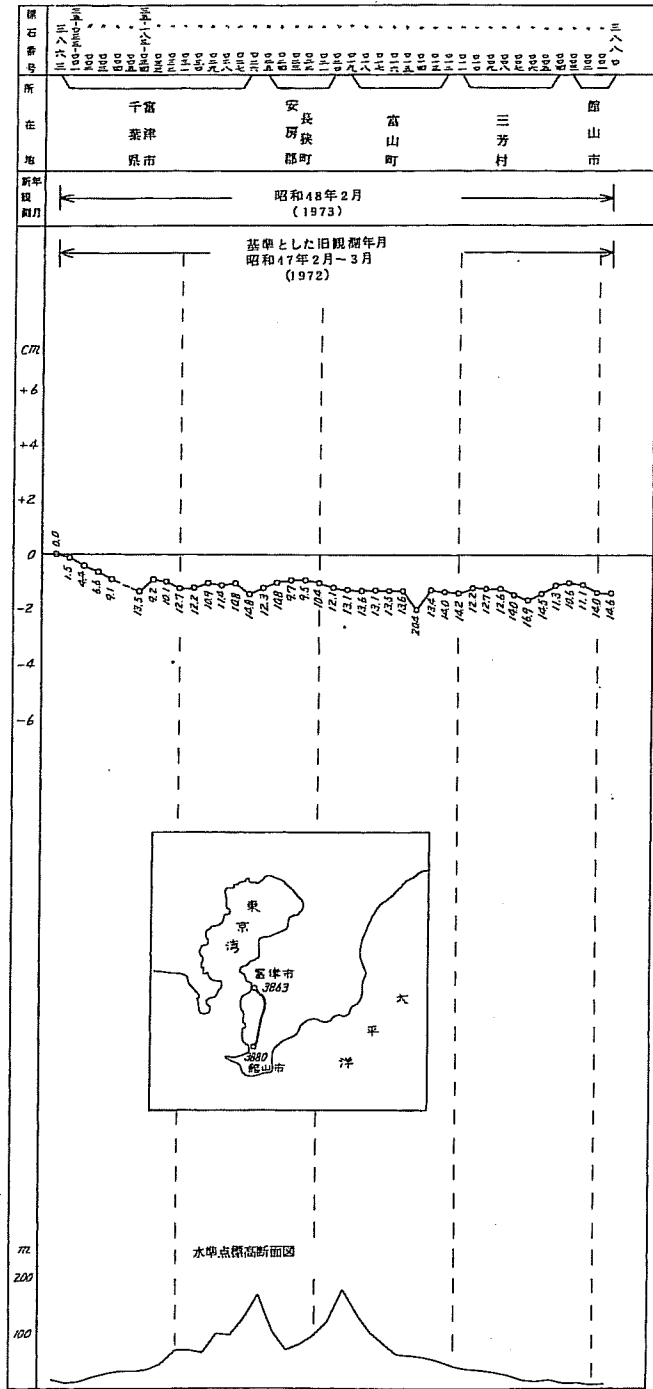
← 昭和48年1月~3月 (1973) →

基準とした旧観測年月
昭和46年1月~3月 (1971)

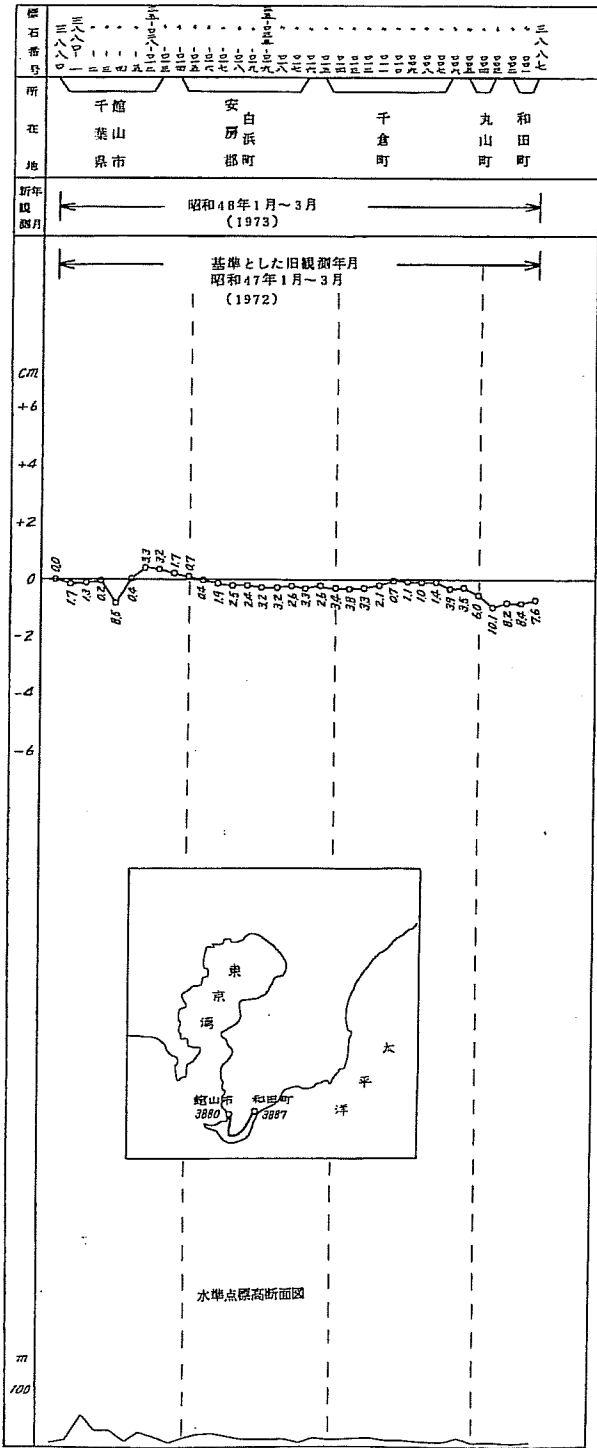
※昭和47年1月~3月の観測値に一段問題があったので昭和46年1月~3月の観測値を基準とした。



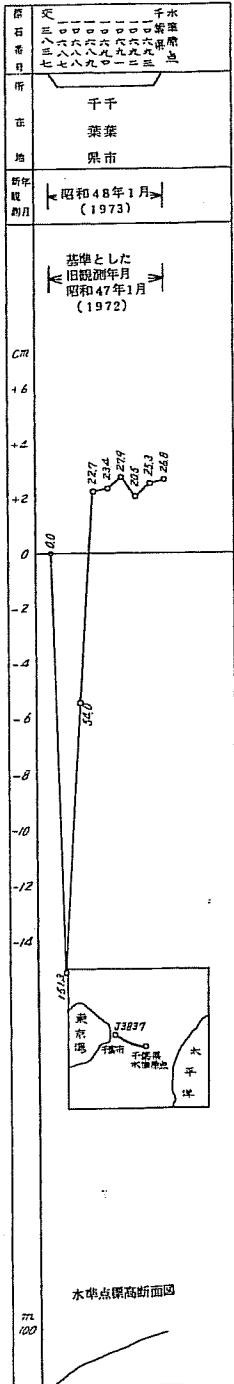
水準点標高断面図

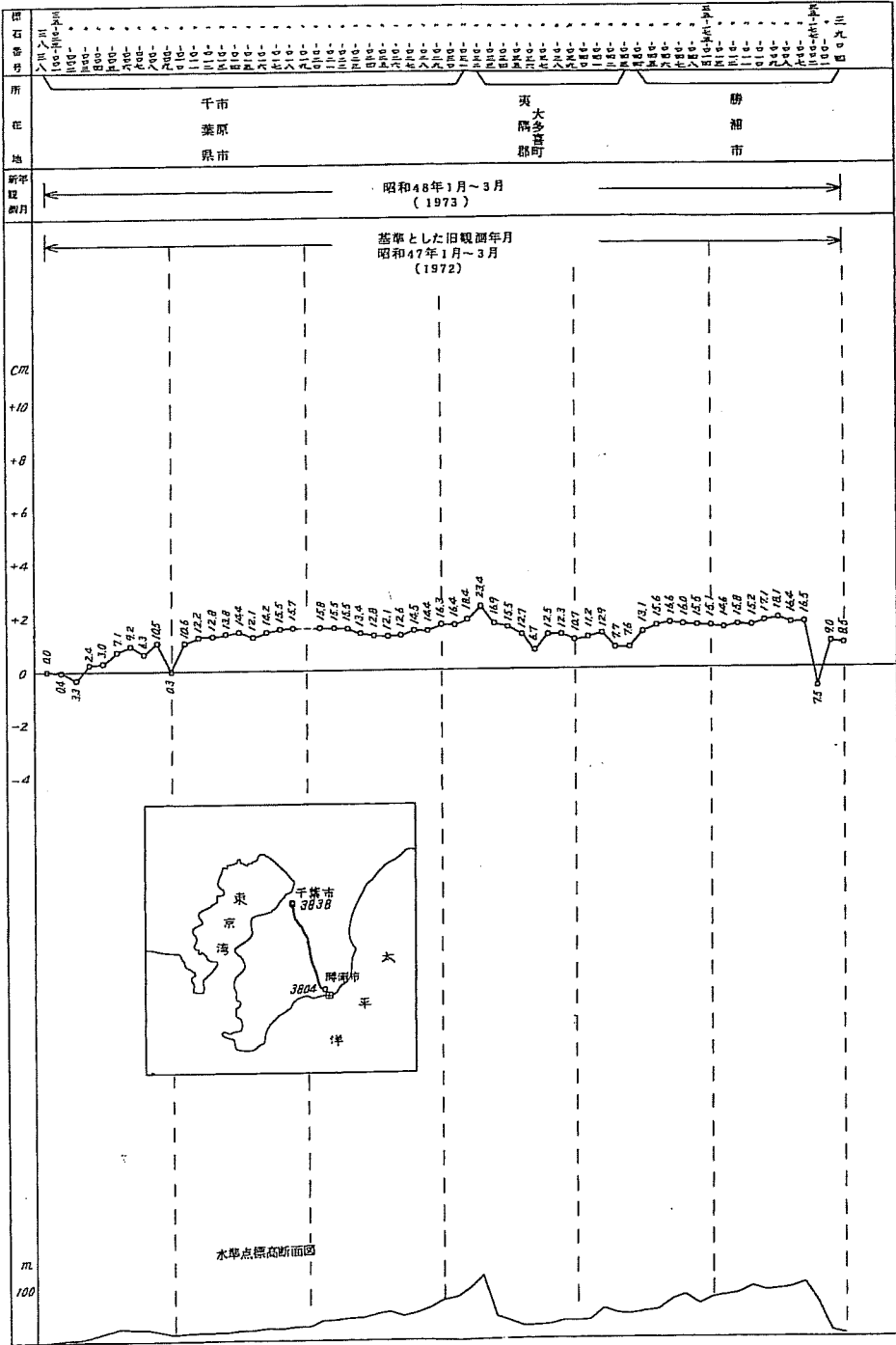


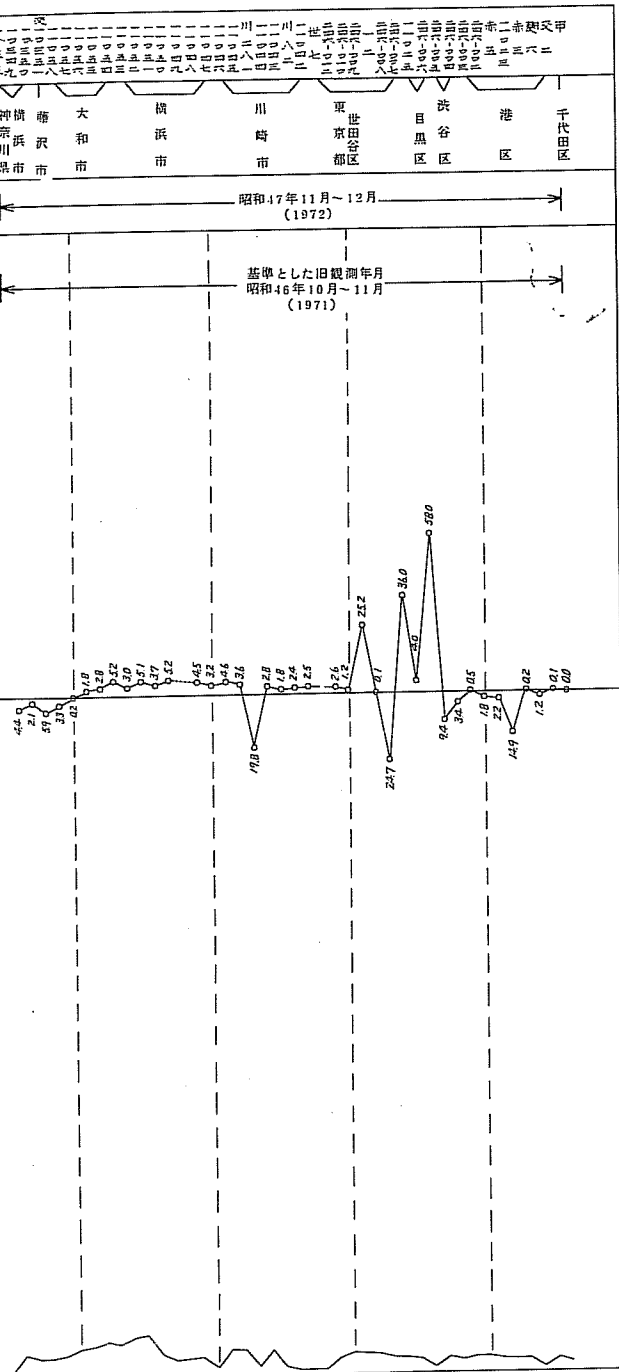
自千葉県館山市 至 千葉県安房郡和田町



千葉県千葉市



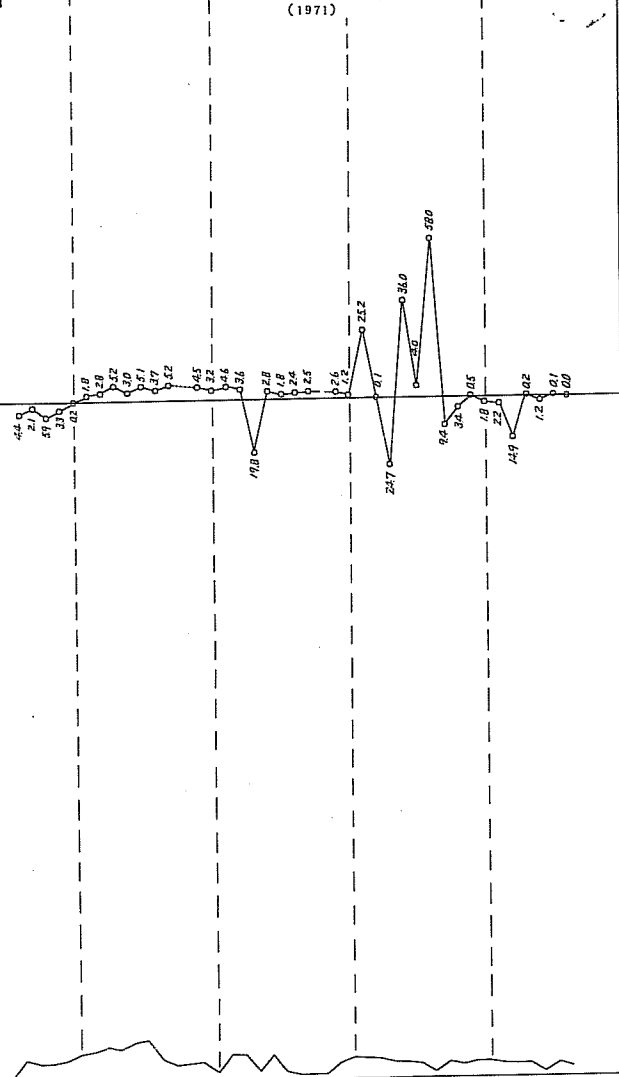


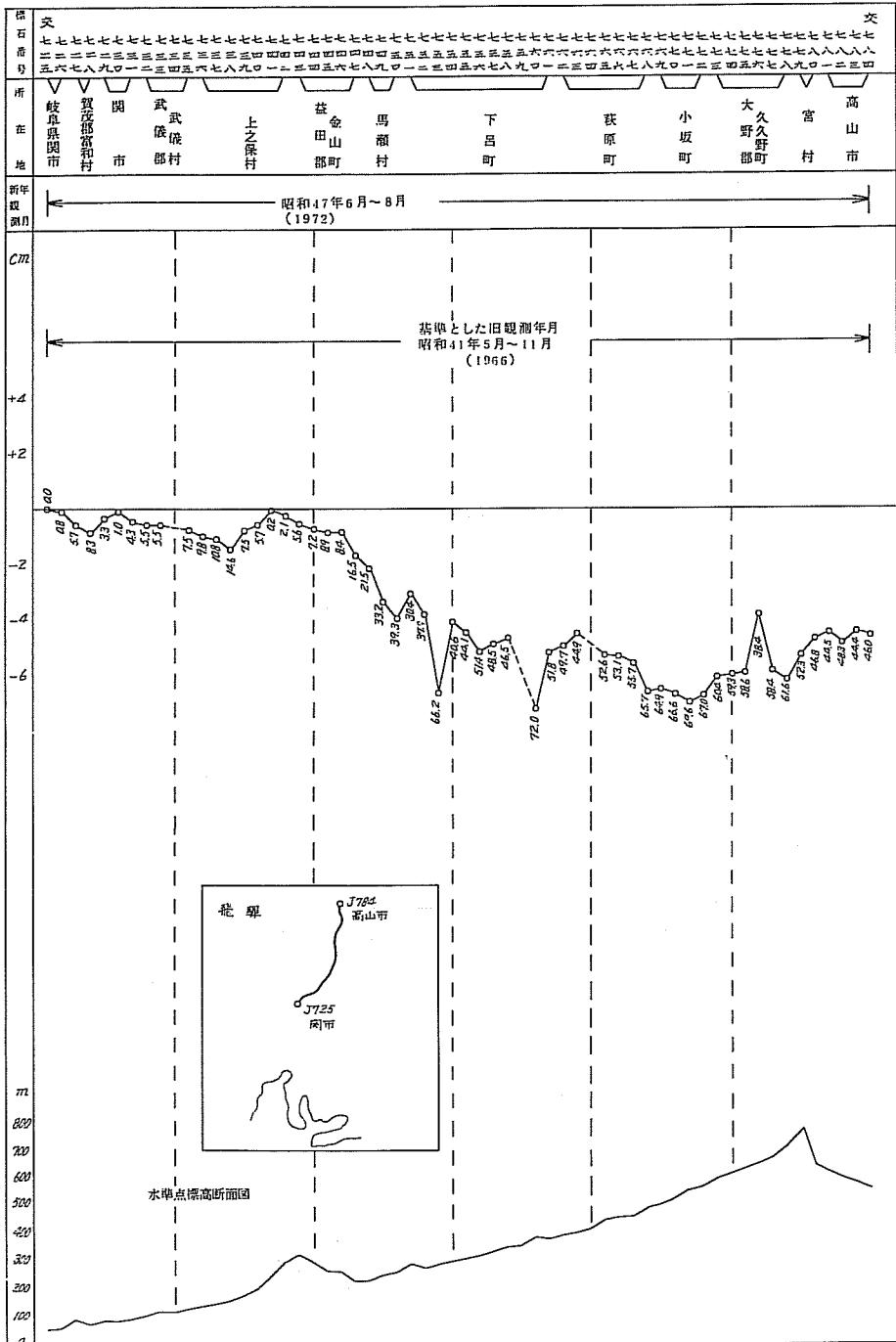


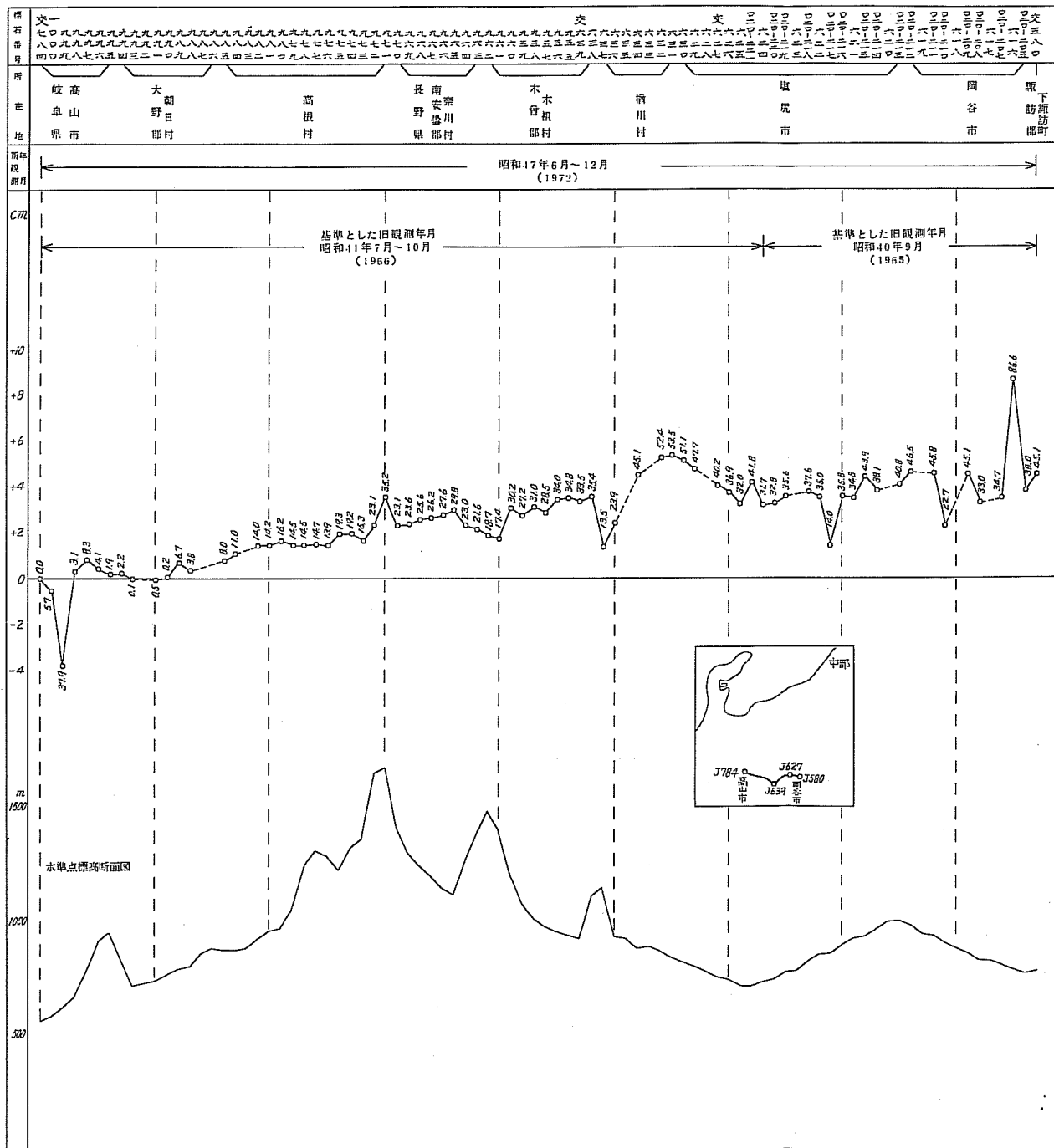
千代田区
港区
渋谷区
目黒区
世田谷区
東京都
川崎市
横浜市
大和市
神奈川品市

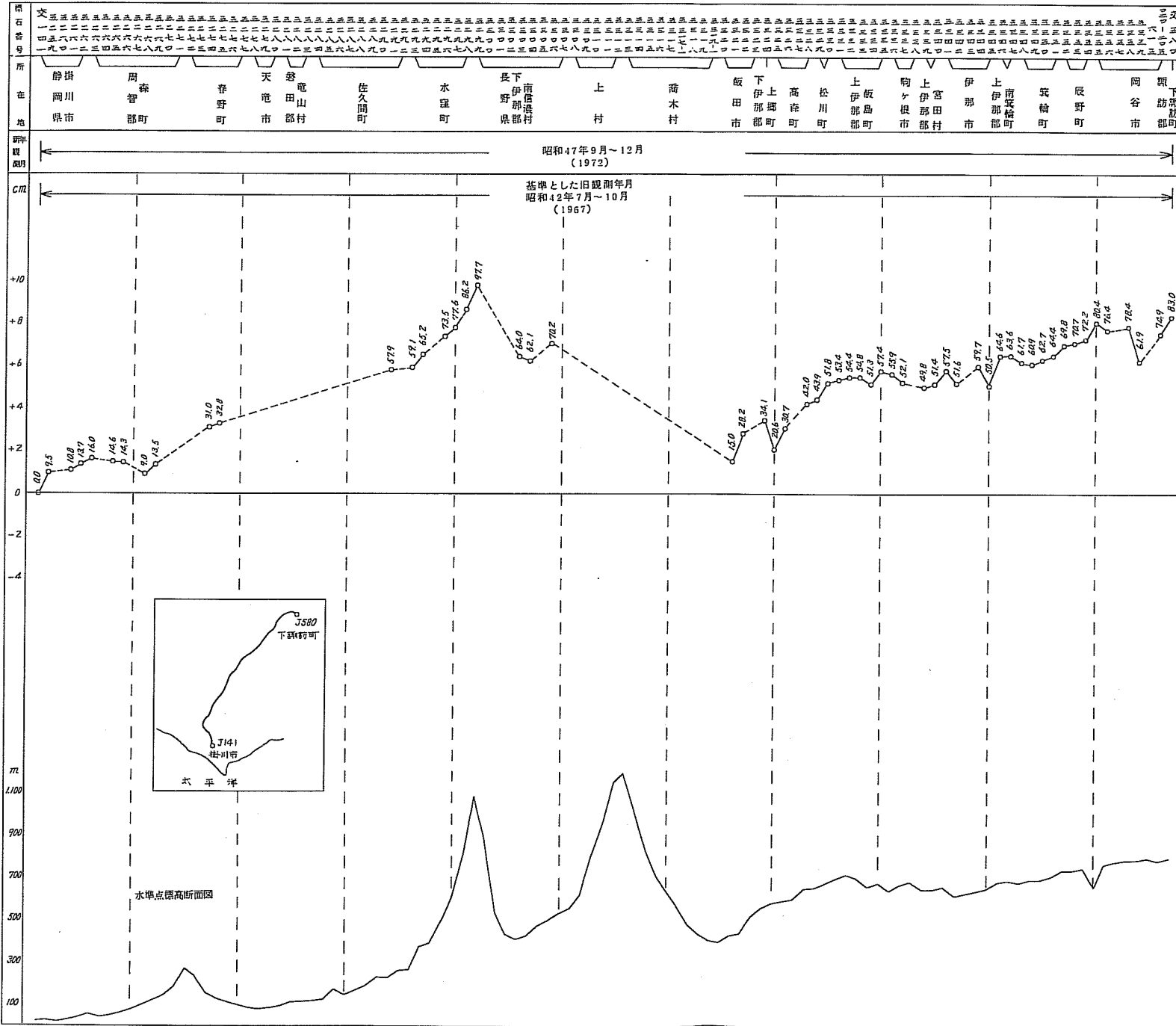
昭和47年11月-12月 (1972)

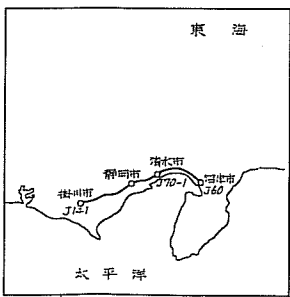
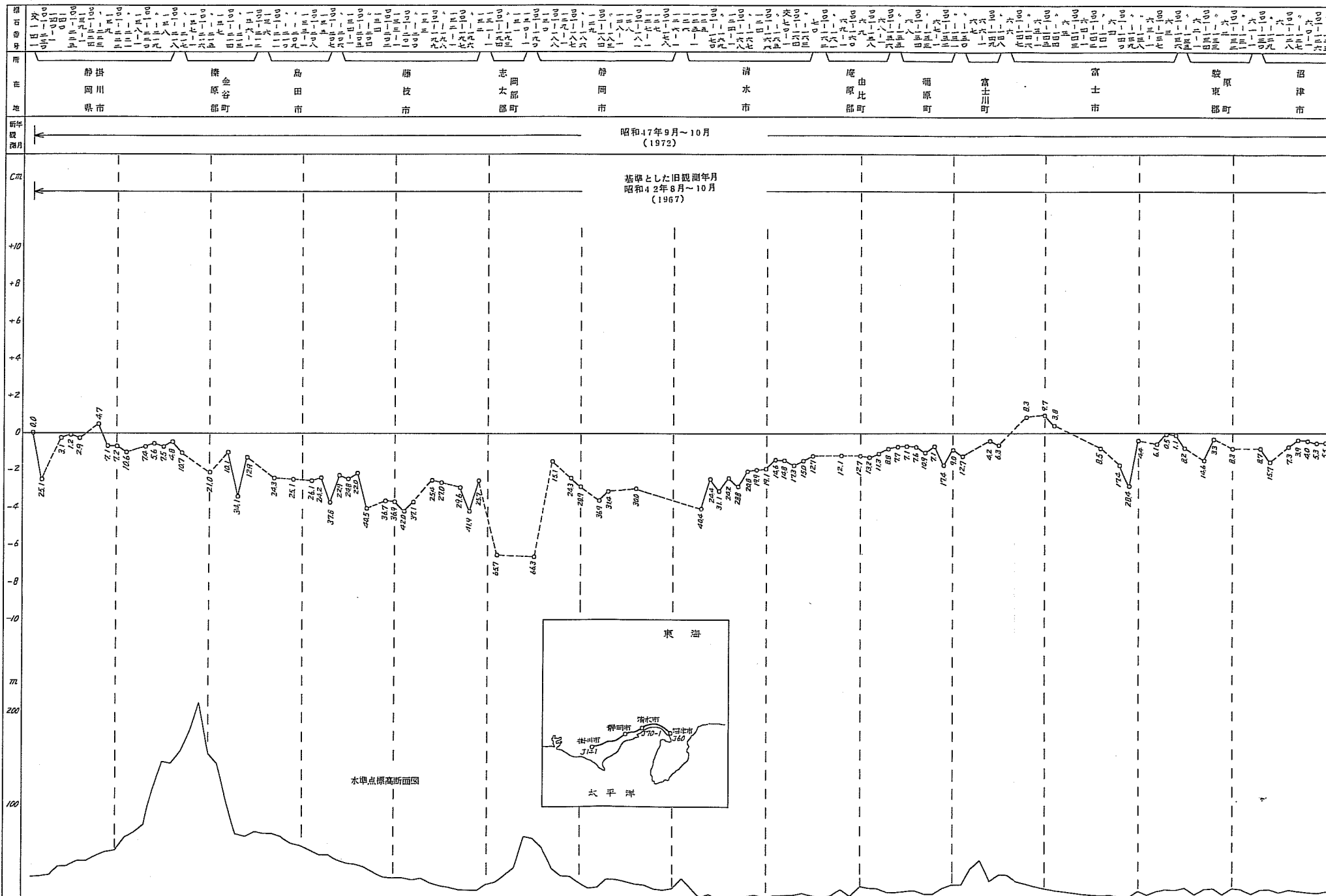
基準とした旧観測年月 昭和46年10月-11月 (1971)











水準点標高断面図

昭和47年9月~10月 (1972)

基準とした旧観測年月
昭和42年8月~10月 (1967)

CM

+10

+8

+6

+4

+2

0

-2

-4

-6

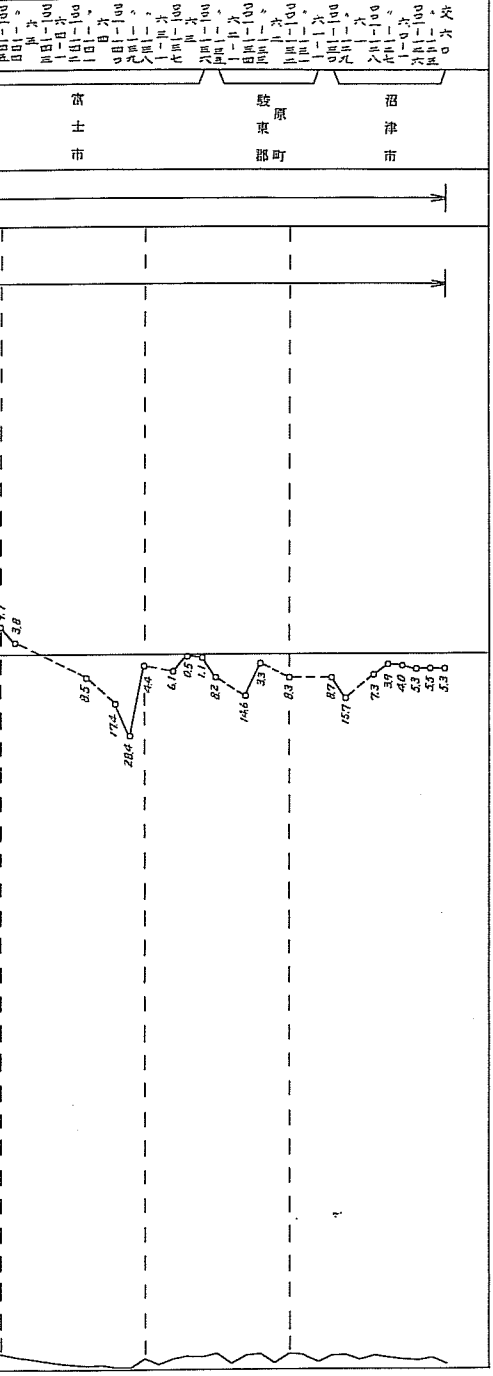
-8

-10

m

200

100



沼津市
 駿東郡
 富士市

